

山口鉄鋼関連4社が出展

水素環境対応の素材発信

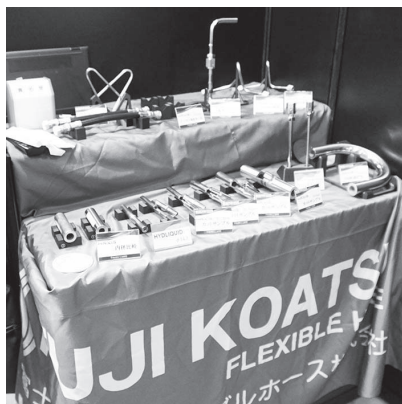
千葉市の幕張メッセで先月開催された、水素産業の展示会「H2&FC EXPO（国際水素・燃料電池展）」は、山口県内に拠点を置く鉄鋼関連4社が昨年に引き続き今年も「山口県パビリオン」として出展した。テクノウェル（本社＝山口県光市、伊ヶ崎哲成社長）、富士高圧フレキシブルホース（本社＝山口県光市、藤井康司社長）、ジャパンファインスチール（本社＝山口県山陽小野田市、陣田尚社長）、イノウエ（本社＝東京都千代田区、井上浩樹社長）の下松営業所（山口県下松市）が共同出展し、水素社会に貢献する加工技術や製品を発信した。

国際水素・燃料電池展

テクノウェルはプラント設備の設計から施工まで手掛け、特に半導体製造設備向けや水素環境などの高い品質が求められる分野を得意とする。ブースでは総合化学メーカーのト

クヤマ向けに納めた、水素化マグネシウムを製造するための水素化反応設備向けプラントなども紹介。安全に製造するための、緻密な温度管理に対応できる設計となっている。

富士高圧フレキシブルホースが展示した製品



富士高圧フレキシブルホースは、水素環境向けステンレス鋼管の量産化加工をPR。日本製鉄の高圧水素用ステンレス鋼管「H2RX 19」の溶接やU字曲げ加工サンプルなどを展示した。同社は東北大学との共同研究で、TIG溶接による自動溶

接を実現。最大で直径32ミリの内径20ミリの鋼管の曲げや溶接などの加工に対応する。得意とする油圧機器の知見を生かし、太物を中心に加工できる点をアピールしていく（同社）とする。

鋼や非鉄金属の極細線材の实物を展示。同社は鉄線の伸線加工技術を応用、発展させる形で製品を開発している。SU316Lを線径0・15ミミまで加工した製品や、アルミなどの細径長尺品を展示した。

イノウエの下松営業所は、極低温環境で採用が期待される積層断熱材「スーパーインシユレーション」を展示。2009年から、欧州メーカーのビヨンドグラビティ（オーストリア）のスーパーインシユレーションで国内代理店を務めている。同社の断熱材はレーザーによる切断が可能のため、加工性に優れ、主に研究開発分野で採用されている。液化水素と話す。

のタンク・配管に巻きつけて使用するなど、極低温環境での採用が見込まれる。ブースに立ったイノウエの井上社長は「下松営業所は3人体制で山口県内のお客さまに対応している。地域とともに、水素分野で素材を通じたモノづくりに貢献していきたい」と話す。

テクノウェルの展示ブース



ジャパンファインスチールが展示した線材